F2-29

湘南サナトリウムにおける近代メディカルツーリズムに関する研究
—(その 2)「南湖院」療養者手記より捉えたレクリエーションおよびメディカルツーリズムの実態—
Study on Modern Medical Tourism about Shonan Sanatoriums
—(Part2)Focus on recreation and medical tourism in Nankoin from patients' note—

○安齋七風[1]，横内憲久[2]，岡田智秀[2]，押田佳子[2]
* Tsukasa Anzai[1],Norihisa Yokouchi[2],Tomohide Okada[2],Keiko Oshida[2]

Abstract: In this study, we investigated the medical tourism based on the recreation of patients from patients' note in Nankoin. As a result, tourist attractions of Modern Chigasaki were excavated by patients.

１．背景および目的—前稿(その 1)では，南湖院設立に係わるプロセスと茅ヶ崎の発展との関係性を明らかとした.

本稿では，療養者や面会者などの手記を対象とした文献調査，および関係者へのヒアリング調査で得られた結果をもとに，南湖院内外で行われていたレクリエーションの実態を明らかにすることで，近代メディカルツーリズムの端緒を捉えることを目的とする.

２．研究方法— Table1 に本稿の研究方法を示す.

３．療養者を取り巻く環境—南湖院の主な治療方法は自然療法であり，海浜の清浄な空気の中で安静な日課をこなすことにより，回復を目指すものであった[1]．この治療法のために，砂浜には日光浴場(Figure1，N)や外気に接する海気室(Figure1，J)が設けられ，療養者は外出の際に病院から貸与する携帯用痰壺または痰袋を携帯し，喀痰をこの中に入れることを順守していれば，許可を得ての外出が可能であった[1]．なお，南湖院における総療養者数は約１万五千人であったとされ，療養者は，比較的症状が軽い A 患者と重篤なB患者に分けられた[1]．

４．南湖院における療養者のレクリエーション実態

南湖院の療養者，面会者には著名人も多く，南湖院に係わる手記を数多く残している．本項では，関係者の手記からの読み取りをもとに，「病棟内」「病棟外」「敷地外」におけるレクリエーションの実態について明らかにする.

４－１．病棟内におけるレクリエーション—入院の療養者同志の交流は，病舎ごとの集会や，詩歌，俳句など作品を通して行われており，時には患者同士で同人誌を発行してその心情を表現していた[2]．また，医王堂(Figure1，M)で戦前まで開催された「医王祭(南湖院のクリスマス祭)」は，南湖院における最大の行事であり，神奈川県知事や東京帝大教授をはじめ錚々たる面々や，近隣の住民も数多く招待され，迷惑施設であった療養所の地域イメージを払拭することに貢献したことが窺える[2]．また，国木田独歩が南湖院文学に及ぼした影響は大きく，B 患者であった独歩自身は第三病棟より(Figure1，C)ほとんど身動きできない状態であったが，面会者の真山青果が彼の病床録を読売新聞で連載したことにより，南湖院の知名度は一層高くなった(Table2)[2]．彼の死後入院した石川啄木や，友人の面会に訪れた葛西善蔵などは，各々独歩が居た病室を見学しており，文筆家にとって聖地巡礼の場の如く扱われていたことがわかる[2]．

Table1 Outline of the survey(調査概要)　(This is original table by authors)

調査方法	文献調査　[1][2][4]~[8]	ヒアリング調査
調査期間	2015(平成28)7月8日～9月30日	2015(平成28)8月19日
対象	・神奈川文学年表　昭和元年～明治20年	茅ヶ崎太陽の郷支配人　石原隆則
	・短歌文學全集　前田夕暮篇	・地域での受け入れ態勢
	・水甕　岩谷莫哀	・往診患者はどこに住んでいたのか
	・南湖院　高田畊安と湘南サナトリウム	・サナトリウムが出来たことで参入、発展した業種
	・南湖院と高田畊安	―
	・病床録	―
	・海辺の憩い　湘南別荘物語	―

４－２．病棟外のレクリエーション—病棟外におけるレクリエーションに関する記録の大半が A 患者によるものであり，日課の合間に病棟外(院敷地内)で様々な行動がとられたことが記されている．中でも詳細なものは，娘の面会者として南湖院を頻繁に訪れた歌人・前田夕暮によるものであり，例えば，Table3 より，院内を散策した際に目にした「風車」「第一給水タンク」(Figure1,K,L)を，風車については「日は林に照り，日は砂にかげり風，風車に光る午前午後」，第一給水タンクについては「青くぬれた水槽の涼しい朝かげ新聞紙一枚敷いてわが子と坐り(略)静かなわが子の歓びを感じる」と詳細に記している[2]．この他に，ピクニックのように親子が砂浜で食事をしたという記述もあり，これらから，療養者が病棟外で比較的長時間レクリエーションを楽しむことができたことが窺える．また，風車と第一給水タンクは，色や形状が目立つことより，敷地内外から認識されていたことが関係者の手記に記されていたことより，南湖院のランドマークとして，広く認識されていたことが窺える.

４－３．施設外におけるレクリエーション—施設外におけるレクリエーションに関する記録は A 患者のみにみられ，Table3 より，葛西善蔵が療養者の友人と散策した様子を「二人で散歩に出て，蜜柑を食べながら近くの小川で鮒を釣っているのを見たりして」と記したり[1]，平塚らいてうが患者である姉と馬入川で舟遊びをする様子が撮影されるなど，

1：日大理工・学部・まち　2：日大理工・教員・まち

南湖院からほどなく近い湘南海岸を中心に展開されていたことが分かる．これは，療養者に課せられた「院内心得」において，「海浜にて漁業等の迷惑とならないように」と注意がなされていたことより，眼前に広がる砂浜に日常的に療養者が訪れていたことが窺える．特に平塚らいてう姉妹は，高田院長と懇意であったことより，院長から直接周辺の案内も受けていたことから，充実した茅ヶ崎観光をしていたとみられる．さらに，「南湖院と高田畊安」によると，「検温巡回時間の合間に，仲間を誘って橋を渡り，対岸の平塚の喫茶店に行った」「大磯のうなぎ屋まで遠征した」など，療養者の行動範囲は茅ヶ崎に留まらないことが捉えられた．

５．小結—以上より，南湖院において，療養者はそれぞれの病状に応じたレクリエーションを病棟内外，施設外で楽しんでおり，特にB患者によって発見された地域の魅力は，茅ヶ崎のメディカルツーリズムにおける貴重な観光資源を発掘したといえよう．

６．まとめ—南湖院の設立は，茅ヶ崎の発展に大きく寄与しただけでなく，メディカルツーリズムを通した観光資源の発掘へと繋がった．しかしながら，南湖院により発掘された茅ヶ崎の観光が価値を見出されたことで，南湖院の存在価値が問われることとなったことより，メディカルツーリズムの長期的発展のためには，医療行為の安全性への地域理解を導入段階より浸透させる必要があるといえよう．

Table2 Overview of the Writer of action at Nankoin(著名作家の行動記録)　[3][4]

和歴（西暦）	滞在期間・訪問日	療養者	見舞客等
M35（1902年）	7月	落合直文（39）	－
M38（1905年）	夏～秋	松村介石（46）	－
M41（1908年）	2月4日	国木田独歩（35）	－
	2月16日		吉江狐雁（27）前田木城（29）
	2月25日		小栗風葉（33）田山花袋、小杉未醒
	3月		中村武羅夫（21）
	4月14日		田山花袋（36）
	5月19日		植村正久（50）
	11月13日	小山鼎浦（39）	－
	11月26日		田村俊子（27）長沼智恵子
M45・T1（1912年）	7月13日	尾竹紅吉	平塚らいてう（26）
	9月－翌年8月	坪田譲治（22）	－
T2（1913年）	5月20日	柏木義円	－
T3（1914年）	5月11日	森田たま（19）	－
T5（1916年）	2月中旬	夫	平塚らいてう（29）
T15・S1	5月	八木重吉（28）	－
	6月		佐藤惣之助（35）
S7（1932年）	9月20日	長女妙子	前田夕暮（49）
S8（1933年）	3月23日	大手拓次（45）	－
S20（1945年）	2月9日	高田畊安（83）	－

７．謝辞

「本研究は，日本学術振興会平成 28 年度科学研究費補助金（若手研究(B)16K18833）の支援により実施されました．ここに謝意を表します．」

８．補注・参考文献

[1] 大島英夫:「南湖院・高田畊安と湘南のサナトリウム」, 茅ヶ崎市史編集員会, pp1～23, 2003. 3. 31　[2] 川原利也：「南湖院と高田畊安」, 中央公論美術社版, pp5～91, 1997 [3] 高三啓輔：「サナトリウムの残影・結核の百年と日本人」, 日本評論社, p18, 2004. 1. 15　[4] 島本千也:「海辺の憩い・湘南別荘物語」, 島本千也, pp160～180, 2000. 1 [5] 前田夕暮：「短歌文學全集」, 第一書房, pp388～393, 1936-1937 [6] 尾上柴舟, 岩谷莫哀, 石井直三郎：「水甕」, 短歌結社, 一月号 pp48～49, 1914. 4 [7] 真山青果「病末録」新潮社 1925[8] 神奈川近代文学館HP http//www.kanabun.or.jp/material-date/chronological-table

Table3 Overview of the Writer of action at Nankoin(著名作家の行動記録)　[3][4]

著者名	訪問理由	作品名	行動
前田夕暮	見舞客	南湖院（1）	風車赤く風に光り、（略）*赤い風車の下の、敏感な検温器のそばで、わが子さよりのやうに寝てゐる。*
―	―	南湖院（2）	おぼつかない父の視力をいたわりながら、（略）*青くぬれた水槽の朝かげ新聞紙一枚敷いてわが子と坐り(略)*
葛西善蔵	見舞客	病友	海岸砂地の大きな病院の建物の中を、Sに案内されて見て廻った。（略）*二人で散歩に出て、蜜柑を食べながら近くの小川で鮒を釣っているのを見たりして*（略）
平塚らいてう	見舞客	青鞜	*(患者である姉と馬入川で舟遊びをした後、近くの弁天様の境内で撮影した写真を掲載)*

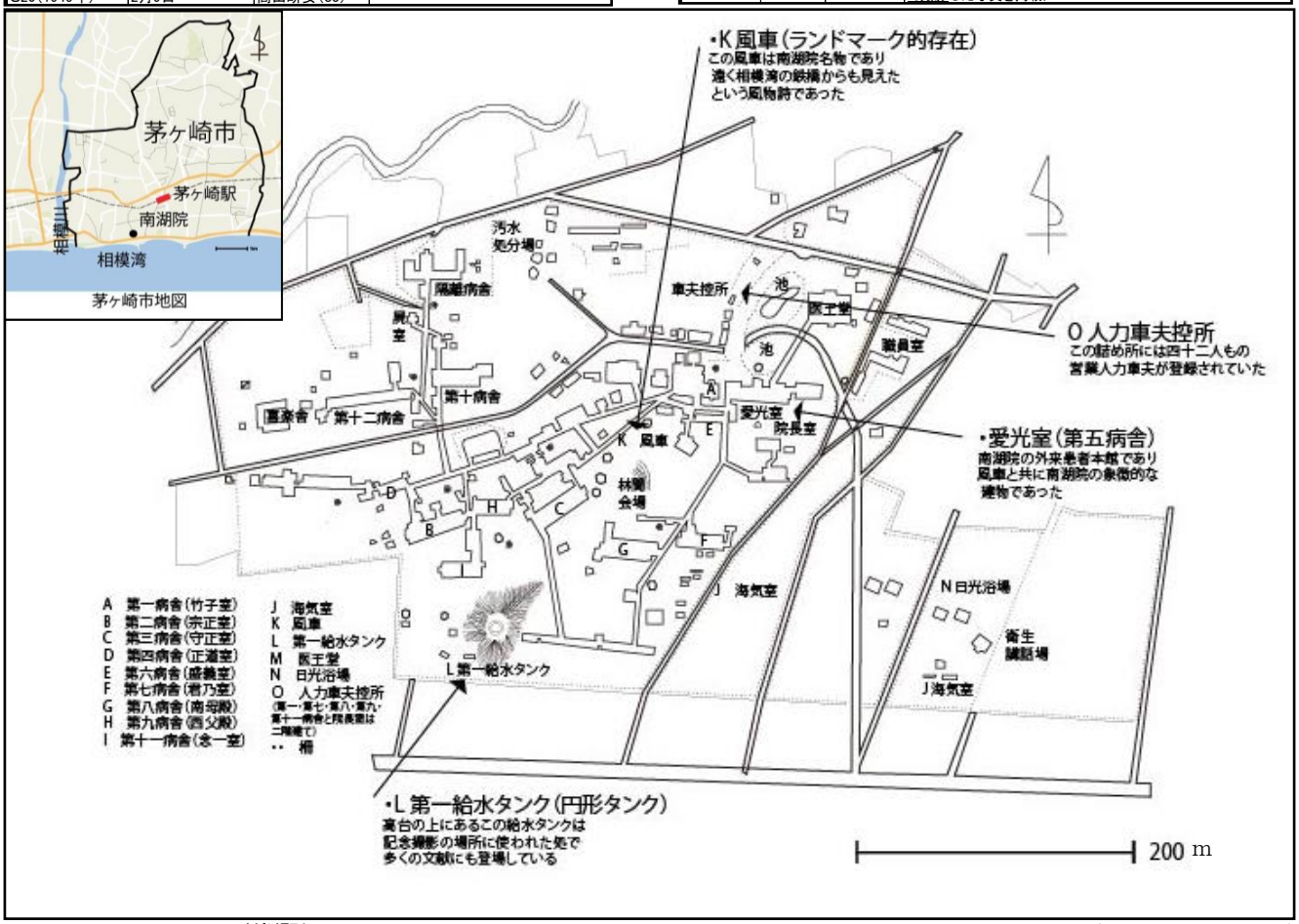

Figure1 Overview of the study area　(対象場所)　(This is original table by authors)